

茶園の年間施肥体系における石灰窒素の活用

年間施肥体系に石灰窒素を活用することで、土壤改良効果が得られ収量・品質が向上し、肥料費を軽減

背景・目的

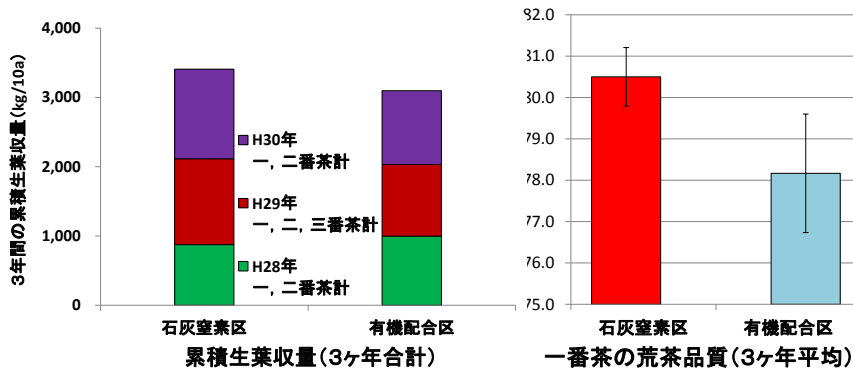
- ・茶価の低迷により茶業経営状況は厳しく、さらなるコスト低減が必要
- ・石灰窒素は窒素供給以外に酸度矯正効果も期待できるが、3～5年に1回の更新時の活用に限定
- ・そこで年間施肥体系における石灰窒素の連年施用が茶の収量・品質および土壤化学性に及ぼす影響について検討

成果の内容

石灰窒素を活用した施肥窒素設計

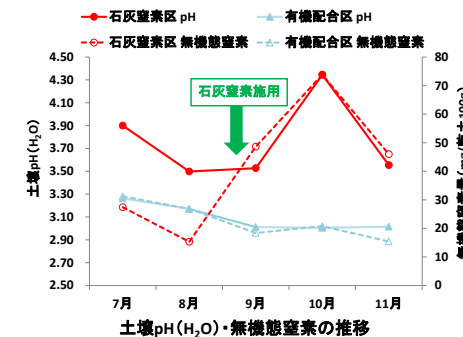
試験区名 (施肥窒素配分 kgN/10a)	秋肥	春肥	芽出し肥	夏肥Ⅰ 一番茶後	夏肥Ⅱ 二番茶後
	(10)	(15)	(7)	(8)	(10)
石灰窒素区 (秋肥) (夏肥；更新年)	石灰窒素	有機配合	硫安	有機配合	有機配合
有機配合区	有機配合	有機配合	硫安	有機配合	有機配合

年間施肥窒素50kg/10aの内・石灰窒素で10kg/10aを活用
「通常年は秋肥全量，更新年は深刈更新直後の夏肥Ⅱ」

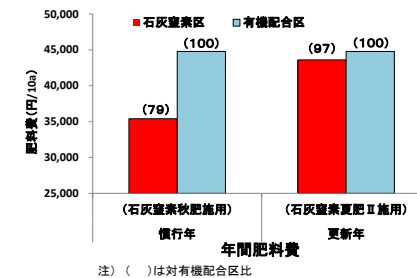


有機配合主体の施肥体系に比べ収量・品質が向上

導入メリット



土壤pHを矯正
無機態窒素量増加
茶園土壤が良好化



肥料費削減
秋肥代替時20%減
更新年 3%減

3年間計で15%減

土壤改善と低コスト化

期待される効果

収量・品質向上と生産コスト低減による茶業経営の安定化

普及対象・範囲
県内茶生産者